

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	Java I				
実務経験 教員	Web アプリケーション開発業務の実務経験及びシステム開発業務の実務経験を 3 年以上持っている教員が担当				
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科 1 年				
到達目標	C 言語実習と並行し基本入出力、制御文などを身に付させる。 これらを通して、Java プログラミングの基礎及びアルゴリズムの基礎を理解し、独力で初級レベルアプリケーションが作成可能になる。				
授業内容	Java を採用したシステム開発業務経験のある教員から、開発業務において注意しなければいけないコーディング規則などを踏まえて以下項目の実施。 ①Java の基礎文法 ・変数の作成/利用 (int, long, float, double, boolean) ・文字列クラス変数の作成/利用(string) ・System.out.print 系を使った入力 (println, print, printf) ・Scanner クラスを使った入力 ・制御構造 (条件判定/繰り返し/ラベルを使った break) ・配列/リスト ・Math クラス等のメソッドの利用方法 ②クラスの作成と利用方法の基礎 ・main メソッドのあるクラスから、自作したクラスを利用する ・メンバ変数/アクセス修飾子 ・コンストラクタ ・メソッド ③ 前期の復習を兼ねて、データ管理専用クラスを作成 例) 会員情報の入ったクラスを作成。(オーバーロード、Override 等の習得) ④ アクセス修飾子の復習とセッター/ゲッターの作成 (含むセッターゲッターの命名規則) ⑤ アレイやリストを使った可変長配列操作 例) 会員情報の入ったクラスを可変長配列に収納 ⑥ ファイル操作と例外処理 ⑦ クラスの継承と効果的な利用方法の習得				
評価方法	①実施单元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題 (グループワーク Or 個人) ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	C 言語		
実務経験 教員	基幹システムのメンテナンス及びシステム開発業務の実務経験を 3 年以上持っている教員が担当		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 56 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科 1 年		
到達目標	各プログラム言語の基礎となる C について学習。キーボードを使った単純入出力を通し、要求に対してのロジックの考え方や制御文を学び、配列やポインタを利用して、大量データや文字列を操作する手法を学習する。		
授業内容	システム開発業務経験を持つ教員から、開発現場で注意しなければいけない規則を踏まえて、C 言語の基本構文と課題を実施する。 ①変数とデータ型について ②基本入出力(<code>printf</code>, <code>scanf</code>, <code>getchar</code>, <code>putchar</code>, <code>gets</code>, <code>puts</code>) ③制御構造(<code>if</code> 構造, <code>while</code>, <code>for</code>, <code>do while</code>) ④ポインタ(ポインタ変数でのみ実施)		
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題 (グループワーク 0r 個人) ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	C 言語/C++		
実務経験 教員	基幹システムのメンテナンス及びシステム開発業務の実務経験を 3 年以上持っている教員が担当		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 時間／後期 56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科 1 年		
到達目標	各プログラム言語の基礎となる C について学習。キーボードを使った単純入出力を通し、要求に対してのロジックの考え方や制御文を学び、配列やポインタを利用して、大量データや文字列を操作する手法を学習する。		
授業内容	システム開発業務経験を持つ教員から、開発現場で注意しなければいけない規則を踏まえて、C 言語の基本構文と課題を実施する。 ①ユーザー定義関数 関数の定義方法を学び、効率的に機能分割ができる基礎となる能力を習得する。 ②ポインタ 配列のアドレス確認から始め、動的メモリの確保の技術を学び、アドレスによるデータへのアクセス方法の基礎を習得する。 ③構造体 異なるデータ型の値をまとめて管理するための技術を習得する。 ④応用問題 1 年間のまとめとして、応用問題（コード行数 100 行以上）の課題を作成。		
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	Web ページ制作基礎／Web ページ制作応用				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科1年				
到達目標	Web サイトとはどのような仕組みによって作成、構成されているのかを理解し、HTML を使った画面制作や CSS を使ったレイアウト構築手法、入力フォームの生成と JavaScript を使ったイベントについて学習する。				
授業内容	① Web サイトの構築環境の準備 ② HTML 基本タグ(H, P, DIV, SPAN, BR, TABLE)などを使った制作手法を理解 ③ CSS デザインを理解(id/class 指定) ※埋め込み型と外部ファイル形式 ④ カラムレイアウトの制作手法を理解 ※DIV タグによる2カラムレイアウトなど ⑤ Javascript とは ⑥ イベントの種類 ⑦ 変数とオブジェクト ⑧ DOM についての理解 ⑨ ミニゲームの作成による技術の確立				
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク Or 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は6割程度、ペーパーを行う場合は4割で計算 合計点が6割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	Windows アプリケーション基礎		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科1年		
到達目標	一般的に利用される Windows 搭載のPCで動作するシステムの開発方法の習得。基礎的なフォームコントロールの利用方法と各イベントについて学習する。		
授業内容	システム開発業務経験のある教員により、プログラム言語の文法や仕様のみではなく、開発現場でのコーディング規則などを交えての教育を行う。 ① Visual Studio の利用方法 ② Windows プログラミングの構築の基礎 ③ フォームコントロールの使い方 ④ イベントドリブンについて ⑤ 演習課題の実施		
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク Or 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	.NET アプリケーション I		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科 1 年		
到達目標	一般的に利用される Windows 搭載の PC で動作するシステムの開発方法の習得。基礎的なフォームコントロールの利用方法と各イベントについて学習する。		
授業内容	システム開発業務経験のある教員により、プログラム言語の文法や仕様のみではなく、開発現場でのコーディング規則などを交えての教育を行う。 ① 配列とコレクション ② サブプロシージャ及びファンクション ③ よく利用するメソッドの理解 ④ イベントとプロシージャについて ⑤ 構造体とクラス ⑥ 演習課題の実施		
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	データベース				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 28 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科1年				
到達目標	データベースとは何かを知り、データベースの種類や用途などについて学ぶ。SQL を使った基本的なデータ抽出法を学習。基本的な DML 文、条件指定でのデータ抽出や挿入、削除、更新などが出来るようになる。				
授業内容	① データベースとは ② データベースの種類 ③ RDBMS の操作について ④ 複雑な検索条件を指定したデータの抽出手法 ⑤ 並べ替えやグループ化 ⑥ グループ化による集計処理 ⑦ 副問い合わせ（サブクエリ） ⑧ 表の結合（JOIN） ⑨ 集合演算（和・差・積） 例文の実行及び演習問題の実施を行い、必要なデータをデータベースから取り出せるように練習を行う。				
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	情報処理技術者				
実務経験 教員					
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 112 時間／後期 112 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科1年				
到達目標	独) 情報処理推進機構 (IPA)が実施している国家資格である情報処理技術者試験の取得を目標とする。				
授業内容	基本情報技術者免除対象講座受講計画にて IPA に申請している計画に基づいて実施する。 ① 基礎理論 ② コンピュータシステム ③ 技術要素 ④ 開発技術 ⑤ プロジェクトマネジメント ⑥ サービスマネジメント ⑦ システム戦略 ⑧ 経営戦略 ⑨ 企業と法務				
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題 (グループワーク 0r 個人) ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	電気工事实習				
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事实務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。				
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科1年				
到達目標	基本的な電気工事回路を理解し、確実に作成を行う。				
授業内容	単位作業 ①コンセント回路 ②電灯・スイッチ回路 ③電灯・コンセント回路 ④パイロットランプ回路 ⑤3路スイッチ回路 ⑥4路スイッチ回路 ⑦自動点滅器 ⑧タイムスイッチ				
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	電気工事座学				
実務経験 教員					
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科 1 年				
到達目標	電気工事の内幹線や分岐回路の設計、それらに関する計算方法、機器や法令等について理解する。				
授業内容	電気工事技術 ①配線図 ②器具と材料 ③配線設計と電気工事 ④検査方法 ⑤法令 ⑥電灯配線と複線図 ⑦電気の基礎理論				
評価方法	①レポートの提出 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	ハードウェア概論 (CompTIA A+)				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 28 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科1年				
到達目標	CompTIA A+の教材を応用し、ハードウェアの基礎知識を身につける。 CompTIA A+の取得又は同等の知識を習得することを目標とする。				
授業内容	PC コンポーネントのインストールと構成 ・ 事故防止の為に安全の確保/本体取り扱い時の ESD 対策 ・ パソコンのケース視点からの種別 ・ マザーボードの種別、マザーボード端子についての解説 ・ マザーボードの用途とサイズにおける拡張スロット数の違い ・ 拡張スロットの仕様 ・ SATA 端子、USB 端子、ディスプレイ端子についての解説 ・ 各種入出力装置の解説・キーボード/マウスなどの入出力装置 ・ セキュリティデバイスについて ・ ディスプレイ及びマルチメディアデバイスのインストールと構成 ・ ディスプレイの種別についての解説 ・ CRT/液晶ディスプレイ/プラズマディスプレイ/有機 EL ・ ディスプレイ端子と接続方法についての解説 PC 用メモリ (システムメモリ) についての解説 ・ メモリの種類/デュアルチャンネル/インストール方法 マストレージデバイスについての解説 ・ HDD/SSD、光学ドライブ各種についての解説 ・ リムーバブルドライブの解説 ・ RAID の解説と構成 ネットワークの構成 ・ ネットワークの基礎知識 ・ SOHO ネットワークの構成 ・ ネットワーク機材の解説 ・ スイッチ (インテリジェント HUB)/ ・ インターネットルータ/無線アクセスポイント ・ 有線 LAN ケーブルの仕様 ・ 無線 LAN の仕様				
評価方法	①実施単位ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題 (グループワーク 0r 個人) ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑥ 追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	キャリア対策		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科1年		
到達目標	就職活動の仕方についてどのような入社試験が行われるか、職種があるかを知る。企業講演会を通して、業種や職種、仕事について知る。SPI 試験対策を重点的に実施し基礎学力の向上を行う。		
授業内容	①就職活動について(試験の種類など) ②職業について ③SPI 対策 非言語 問題を繰り返しスポット実施 授業だけに頼らず、SPI の問題集を積極的に解き、点数を上げるよう指導 小テストで修得度合いを確認し、個人のレベルに合った解説をフィードバック。 ④自己分析 ・自分という人の「棚卸し」と文書化 学生生活を振り返り、面接や履歴書に活用する自己PRを作成する ・アルバイトの履歴書と就職の履歴書の意味の違いについて ⑤グループワーク対策 与えられたテーマについてグループで話し合い、結果をプレゼンテーション 形式で発表し、内容を評価する。 ⑥面接対策 年数回、企業による講演会を実施し、就職に対しての心構えと業界動向に ついて理解する。 年数回、企業による講演会を実施し、就職に対しての心構えと業界動向について 理解できるよう対策を行う。		
評価方法	①授業内における小テスト ②期末試験 ③授業態度 ④出席状況 期末試験及び小テストの合計点が6割に満たない又は出席率80%未満の場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	アルゴリズム基礎		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科1年		
到達目標	プログラム作成に必要な、処理手続きの流れについて理解を深め、フローチャートを用いてアルゴリズムを記述する力を身につける。		
授業内容	1. アルゴリズムについて 2. 間違いのないプログラムを作るには 3. フローチャートの基本図記号 4. フローチャートによるアルゴリズム表現の基本 5. 入出力、計算を含む「順次」・「選択」の基本演習 6. 「反復」記述の例題と演習 7. 配列の活用 8. 配列を活用する処理の演習 9. サブルーチンの活用 10. 2重ループ処理の活用と演習		
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は6割程度、ペーパーを行う場合は4割で計算 合計点が6割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	システム設計		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科1年		
到達目標	要求定義、設計、開発、テスト、運用の各工程における手順や技法を学習する。システム開発における流れを理解させることを目的とする。		
授業内容	1. 開発手法の種類 2. 企画・要求定義について 3. スケジュール管理 4. 外部設計・内部設計について 5. 設計書の様式例の紹介 6. プログラム設計 7. アルゴリズムの演習		
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は6割程度、ペーパーを行う場合は4割で計算 合計点が6割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	Office 実習				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 28 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科1年				
到達目標	Word, Excel の利用について学習。 入力速度向上及び、ビジネス文章作成手法を習得。				
授業内容	①ビジネス文書作成手法 ②Excel, Word の連携 ③ショートカットを利用した効率的な操作方法 ④MOS の取得に向けた模擬試験実施 【前期】 Microsoft Office Specialist Word の取得を目標とする。 【後期】 Excel の主要関数を使用した Book、Sheet の作成 Microsoft Office Specialist Excel の取得を目標とする。				
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク Or 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	課外授業		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 8 時間／後期 8 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科1年		
到達目標	企業講演会やセミナー、実機演習などを体験し、業界の動向や目指す職業についての知識を得る。		
授業内容	① 業界セミナー ② 人間学セミナー ③ 租税年金セミナー ④ シーテックの見学 ⑤ OB/OG 講演会 ⑥ 就職活動セミナー ⑦ 校内合同企業説明会		
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	JavaⅡ (Android 基礎)				
実務経験 教員	Web アプリケーション開発業務の実務経験及びシステム開発業務の実務経験を 3 年以上持っている教員が担当				
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科 2 年				
到達目標	Java を使い、1 年までで学んだ基礎知識を応用し、簡単なアプリケーションの開発を通じて、実際のプログラミング技法を学ぶ。				
授業内容	Java を採用したシステム開発業務経験のある教員から、開発業務において注意しなければいけないコーディング規則などを踏まえて以下項目の実施。 ●じゃんけんゲームを作りながら、以下の処理を学ぶ 1. グラフィクスリソースを使ったアプリケーション開発 2. イベントの処理方法 3. Android アプリ・ライフサイクルについての基礎 ●天気予報アプリを作成しながら、以下の処理を学ぶ 1. インターネットからデータを取得する処理の習得 (Java での基本処理) 2. 非同期タスク処理の実装 3. JSON データの取得と活用方法				
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題 (グループワーク 0r 個人) ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	モバイル開発		
実務経験 教員	Web アプリケーション開発業務の実務経験及びシステム開発業務の実務経験を 3 年以上持っている教員が担当		
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	情報システム工学科 2 年		
到達目標	Java を使い、1 年までに学んだ基礎知識を応用し、簡単なアプリケーションの開発を通じて、実際のプログラミング技法を学ぶ。		
授業内容	Java を採用したシステム開発業務経験のある教員から、開発業務において注意しなければいけないコーディング規則などを踏まえ、以下項目の実施。 1. View を使ったアプリケーションの開発 2. 矩形判定以外のタッチイベント処理の実装 3. 効果音や BGM の利用方法 4. オブジェクト指向を意識したクラス的设计 5. スレッドを用いた画面更新処理の実装		
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	C++		
実務経験 教員	Web アプリケーション開発業務の実務経験及びシステム開発業務の実務経験を 3 年以上持っている教員が担当		
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科 2 年		
到達目標	C#を使ったプログラミングの基礎を復習する。 .NET を使用し、C#の基本文法から学ぶ。 C/C#の技術を習得し、作品制作技術として活用できる能力を身につける。Visual Studioの開発技術の習得		
授業内容	システム開発業務経験を持つ教員から、開発現場で注意しなければいけない規則を踏まえて、以下の内容を学習する。 ・C#の基礎文法、コーディングルール ・クラスの作成 ・クラスの派生、委譲クラス ・アレイリストの取り回し ・アレイ内オブジェクトの内容判定 ・ソートの実装 ・LINQ とアレイ ・Windows アプリケーション開発における制限事項と注意点		
評価方法	①実施単位ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	C#		
実務経験 教員	Web アプリケーション開発業務の実務経験及びシステム開発業務の実務経験を 3 年以上持っている教員が担当		
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	情報システム工学科 2 年		
到達目標	C#を使ったプログラミングの基礎を復習する。 .NET を使用し、C#の基本文法から学ぶ。 C／C #の技術を習得し、作品制作技術として活用できる能力を身につける。V i s u a l S t u d i o の開発技術の習得		
授業内容	システム開発業務経験を持つ教員から、開発現場で注意しなければいけない規則を踏まえて、以下の内容を学習する。 ・ フォームアプリケーション作成の基礎 ・ 低水準グラフィックを使って文字や図形を描画 ・ マルチタスク処理の実装 ・ HTTP 通信を実現し、Web からデータを取得（スクレイピング） ・ J S O Nデータを Web から取得。 ・ 描画処理（onPaint メソッド）の利用方法 ・ print イベントを使った、印刷処理の実装方法		
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	AI プログラミング実習		
実務経験 教員			
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科 2 年		
到達目標	現在社会的に重要とされるデジタルトランスフォーメーション（DX）の本質である、データを利用した問題解決の手法である PPDAC サイクル（Problem：問題－Plan：計画－Data：データ収集－analysis：分析－conclusion：結論）を受講生が自律的に学ぶことができる PBL（Project Based Learning）教育を実施する。 解析すべきデータをどこから見つけ・解析に必要な AI プログラムを書き・目的となる賢いシステムをどう実現すればよいか構想できる力を養成する。		
授業内容	①機械学習による分類・回帰（教師あり学習） ②Python プログラミングの基礎 ③深層学習による分類・回帰（教師あり学習） ④時系列予測・音声解析・自然言語処理 ⑤教師なし学習（クラスタ分析・因子分析） ⑥先端 AI 体験 Python 言語を用いてデータの可視化やファイル操作ができ、標準的な機械学習と深層学習の分類・回帰のプログラムを制作できる。また、任意データに応じた機械学習解析手法の見通しを立て、そのプログラムを開発できる能力を習得する。		
評価方法	①実施单元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	.NET アプリケーションⅡ				
実務経験 教員	Web アプリケーション開発業務の実務経験及びシステム開発業務の実務経験を 3 年以上持っている教員が担当				
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期	28	時間／後期	時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	情報システム工学科 2 年				
到達目標	1 年時に学習した Windows アプリケーションの基礎を応用し、.NET7.0 と C#を使った DB と連携システム開発を行う為の技術を習得する。 また、卒業課題として自分たちでアプリケーションの設計を行い、作成する。				
授業内容	以下の内容を履修する。 ・デリゲートの習得（非ラムダ式） ・ラムダ式概念と応用 ・Using の利用方法 ・Using に対応したクラスの作成 ・ファイルの入出力パターン ・nuget を使ったライブラリの追加 ・フォームの派生				
評価方法	①実施単位ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク or 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	SQL/DBA				
実務経験 教員					
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 28 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科 2 年				
到達目標	SQL を用いてリレーショナルデータベース管理システムを操作できる技術を習得する。データ問合せ・DML/DDL/DCL を一通り理解できる。				
授業内容	①実習環境について Oracle APEX の環境、実習環境を整える ②データ問合せ 1 年生の時に学習した、データベースからデータを取得するための基本的な文を復習する ③データ操作文 (DML) DML について理解を深め、データ操作を行う ④データ定義文 (DDL) オブジェクトの種類及び作成・変更・削除を行う文法を理解し、データベースオブジェクトを生成するスクリプトの作成を行う。 ⑤データ制御文 (DCL) 権限の付与及び剥奪の文を理解する。 ⑥SQL の確認 問い合わせ・DML・DDL・DCL・トランザクション制御を正しく理解する。 ⑦E-R 図の解読と記述 エンティティとリレーションシップを理解し、解読する。 ⑧項目定義書の解読 ⑨設計書を基に SQL を作成 ⑩スクリプトファイルの作成 習得成果の確認のため、DB 設計書をもとに、各自スキーマ内にデータベースオブジェクトを作成する。設計書を基に実装する能力を身につける。				
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題 (グループワーク 0r 個人) ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	情報処理技術者				
実務経験 教員					
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 112 時間／後期 112 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科 2 年				
到達目標	独) 情報処理推進機構 (IPA) が実施している国家資格である情報処理技術者試験の取得を目標とする。				
授業内容	①基礎理論 ②コンピュータシステム ③技術要素 ④開発技術 ⑤プロジェクトマネジメント ⑥サービスマネジメント ⑦システム戦略 ⑧経営戦略 ⑨企業と法務 基本情報技術者免除対象講座受講計画にて IPA に申請している計画に基づいて実施する。				
評価方法	①実施単位ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題 (グループワーク 0r 個人) ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	基礎理論				
実務経験 教員					
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科 2 年				
到達目標	電気に関する基礎的な知識、計算能力と理論と応用を学び、実際に活用する能力を育てる。				
授業内容	①直流回路 電流・電圧・抵抗 オームの法則 抵抗回路 電流の作用 ②磁気 磁力の性質と働き 誘導インダクタンス ③静電気 電解の性質 コンデンサ ④交流回路 基本回路とその性質 直列回路の計算				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気回路		
実務経験 教員			
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択		
授業時間	前期 56 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科 2 年		
到達目標	電気回路における公式を理解し計算方法について理解する。		
授業内容	①原子の構造 ②半導体の性質 ③トランジスタ回路 ④ダイオード回路 ⑤各種半導体素子 ⑥電界効果トランジスタ ⑦半導体集積回路 ⑧2進数・10進数・16進数 ⑨ベン図・論理回路 ⑩フリップフロップ		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気通信の基礎		
実務経験 教員			
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科 2 年		
到達目標	電気通信回線についての伝送理論を理解し、デジタル伝送路の伝送技術について理解する。		
授業内容	①電気通信回線の伝送量 ②伝送量の計算 ③電気通信回線の電気特性 ④反射 ⑤漏話 ⑥ひずみ、雑音、反響、SN 比 ⑦デジタル変調方式 ⑧多元接続方式・多重アクセス制御方式 ⑨PCM 伝送 ⑩光ファイバ通信		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	端末技術		
実務経験 教員			
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択		
授業時間	前期 56 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科 2 年		
到達目標	ブロードバンドネットワークで用いられている各種端末設備・機器の機能について理解する		
授業内容	①ADSL モデム、スプリッタ ②IP 電話システムにおける各種端末 ③LAN の概要 ④LAN の伝送媒体 ⑤イーサネット LAN ⑥無線 LAN ⑦LAN の媒体アクセス制御方式 ⑧集線装置 ⑨LAN 間接続装置 ⑩雷害・電磁障害対策		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	接続工事技術				
実務経験 教員					
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科 2 年				
到達目標	ブロードバンド回線の工事を行うにあたっての各種配線材料、配線工法、工事試験、施工上の設計・安全管理について学習する。				
授業内容	①メタリックケーブルを用いた LAN の配線工事 ②光ファイバケーブルを用いた LAN の配線工事 ③構内情報配線システム ④情報配線システムのフィールドテスト ⑤コマンド等による LAN の工事試験 ⑥IP ボタン電話装置 ⑦施工管理技術				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	情報セキュリティ		
実務経験 教員			
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択		
授業時間	前期 56 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科 2 年		
到達目標	セキュリティに対する考え方、認証技術、攻撃の種別とその対策、運営管理上の技術について理解する。		
授業内容	①情報システムに対する脅威 ②暗号化技術 ③電子認証、PKI、デジタル署名 ④端末設備とネットワークセキュリティ ⑤情報セキュリティ管理		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	ネットワーク技術				
実務経験 教員					
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科 2 年				
到達目標	TCP/IP の基礎や VoIP, アクセス技術等について理解する。				
授業内容	①通信方式と伝送方式 ②デジタル伝送路符号方式 ③IP ネットワークの概要 ④IP アドレス ⑤ネットワーク管理コマンド ⑥VoIP ⑦HDLC、ATM ⑧広域イーサネット、IP-VPN ⑨ブロードバンドアクセスの技術				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	通信法規		
実務経験 教員			
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択		
授業時間	前期 112 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科 2 年		
到達目標	法の目的、用語の定義など電気通信回線設備に端末設備等を接続するため法規について学習する。		
授業内容	①電気通信事業法 ②工事担任者規則 ③技術基準適合認定等規則 ④端末設備等規則 ⑤有線電気通信法、有線電気通信設備令 ⑥不正アクセス禁止法、電子署名法		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	ネットワーク実習				
実務経験 教員	基幹システムのメンテナンス及びシステム開発業務の実務経験を 3 年以上持っている教員が担当				
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 28 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科 2 年				
到達目標	ネットワークを使ったアプリケーション開発のノウハウを身につける				
授業内容	以下の内容を学習する。 ・ IPv4 の基礎知識、IPv6 の基礎知識 ・ L 2 スイッチの基本設定 ・ ルータの基本設定 ・ V L A N を使ったネットワークの構築 ・ D H C P サーバの構築 ・ 小規模ネットワークの構築 ※将来的に、C C N A 等の資格にチャレンジできるだけの基礎知識の習得を行う。				
評価方法	①実施単位ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	ソフトウェア理論				
実務経験 教員					
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 28 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科 2 年				
到達目標	プログラミングを行う上で必要な、アルゴリズムを考える能力を高める。 基本情報技術者試験の午後問題で出題される、疑似言語を交えて、 処理手順を考える力や、処理をトレースする力を身につける。				
授業内容	以下の内容を学習する。 ① アルゴリズムについて ② 処理手順の基本構造（順次、選択、反復） ③ フローチャート図記号 ④ 疑似言語の表現 ⑤ 処理手順及び変数のトレース ⑥ 疑似言語例題演習 ※基本情報技術者試験の午後問題で出題されるアルゴリズムに 適応できる能力を、演習を通じて身につける。				
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	キャリア対策				
実務経験 教員					
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 28 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科 2 年				
到達目標	継続した業界研究・E S 作成・グループディスカッションなどの学習を行い自身の進路を明確にしていく				
授業内容	① SPI のスコア向上の為の練習 合格基準の点数があることを理解させ、少しでもスコアを重ねることが出来るよう個人でもテキストを購入し、スコア向上に努める。 ② 就職活動に必要なスキル/アイテムの再確認 就職に必要な書類の解説と確認 ビジネスメールシグネチャ、ビジネスメールの書き方 受験の手続き（説明会に参加するまでの手続き） リクルートスーツやかばん、ネクタイ等のアイテムの意味と解説、入社後のアイテムについて ③職業/職種にについての解説 ④ ビジネスマナーの習得 ・相手を思いやる心がマナーであり、別に押し付けられる難しいプロトコルではない。そのうえで、色々なマナーを理解していく。 ⑤ ビジネスシーンでのマナーあれこれ ・ビジネス上で発生するシーンごとのエピソードを交え、どのような意識で立ち振る舞えばよいかを学ぶ。				
評価方法	①実施单元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	オープンソース実習				
実務経験 教員	基幹システムのメンテナンス及びシステム開発業務の実務経験を 3 年以上持っている教員が担当				
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 28 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科 2 年				
到達目標	オープンソースについての基礎知識を学ぶ。システムの動作環境の概念及び構築を実施 ネットワークサーバ環境を利用した、社内ネットワーク専用アプリケーション開発の設計・ 制作スキルを身につける				
授業内容	企業で使用されるシステムの開発業務経験のある教員によって、以下の内容を学習する。 社内 DB サーバへのアクセスと、セキュリティを意識したアプリケーション開発を行う - MySQL データベース対応の Windows アプリケーション開発の習得 - Windows 用 MySQL サーバソフトウェアを導入し、個人端末のみでの開発にも対応できるスキルを学ぶ。 - マスタメンテナンスプログラム作成 - データグリッドビューを使ったデータの表示 - 暗号化 - クライアントパスワードの暗号化 - 送受信データの暗号化 - 社内用サーバを構築し、各種サービスの設定を行うスキルを習得する - ユーザ管理 - ファイル共有サービスの提供。 - Web サーバおよび、PHP 実行環境の構築 - MySQL データベースサーバの構築				
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期		
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	作品制作				
実務経験 教員					
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期	時間／後期	112	時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	情報システム工学科 2 年				
到達目標	現在までに培った知識やスキルを証明する何かしらの成果物を作成させる。 グループワークを通して積極性や協調性を発揮させ、力を合わせ、知恵を出させて物事を成し遂げる。				
授業内容	成果物を考案、開発実習となる。 期日までに設計書を提出し、認証後、開発に着手。間に合わない場合はチームを解散し個人制作へ切り替える。 途中経過の発表会を実施。 後期授業終了前に本番前の発表会を実施。 日程を確定後、OB や企業の方に対して成果物の発表を実施。				
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク Or 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期	☐ 後期	☒ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	課外授業				
実務経験 教員					
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 8 時間／後期 8 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科 2 年				
到達目標	企業講演会やセミナー、実機演習などを体験し、業界の動向や目指す職業についての知識を得る。				
授業内容	①業界セミナー ②人間学セミナー ③租税年金セミナー ④シーテックの見学 ⑤OB/OG 講演会 ⑥就職活動セミナー ⑦校内合同企業説明会				
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	測定実習				
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事実務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。				
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 28 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科1年				
到達目標	電気に関する実験・測定器・各種機器について理解を深め、取り扱い方法を学ぶことを目的とし、理解する。				
授業内容	各種計器による測定・使用方法・レポート作成 ①照度計 ②絶縁抵抗計 ③接地抵抗計 ④ホイートストンブリッジ ⑤検査方法 ⑥トランジスタの静特性 ⑦整流回路の特性 ⑧論理回路 ⑨デジタル IC カウンタ				
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	基本実習				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科1年				
到達目標	国家試験電気工事士試験公表問題の回路を理解し、確実に作成を行う。				
授業内容	第二種電気工事士技能試験公表問題 製作手順の説明・製作 第一種電気工事士技能試験公表問題 製作手順の説明・製作				
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	電気実習				
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事実務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。				
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科1年				
到達目標	電気製図についての技術・知識を身に着ける。電気設備の配線方法や製図の基礎について学習する				
授業内容	電気製図の書き方 ①数字・ローマ字・記号 ②線・平面図 ③等角図・第三角法・寸法記入 ④ネジ ⑤電気製図 ⑥電子製図 CADソフトの使い方 電気配線回路図について				
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	電気工事实習				
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事实務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。				
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科1年				
到達目標	基本的な電気工事回路を理解し、確実に作成を行う。				
授業内容	単位作業 ①コンセント回路 ②電灯・スイッチ回路 ③電灯・コンセント回路 ④パイロットランプ回路 ⑤3路スイッチ回路 ⑥4路スイッチ回路 ⑦自動点滅器 ⑧タイムスイッチ				
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	キャリア教育				
実務経験 教員	単元に合った現役の各種社会人（インターシップ・社会人講和など）が担当する。				
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 16 時間／後期 16 時間 （状況よりオンラインと対面の併用形式）				
対象学年	情報システム工学科1年				
到達目標	社会人・職業人として必要とされる知識や技術を身につける。また、研修を含む企業との連携授業を行う				
授業内容	業界人講話 ①業界の現状 ②求められる人材 ③現場作業の実際 ④社会人としてのマナー 企業研修 ①現場の見学 ②作業手順 ③安全教育 ④技術の習得				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気基礎		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科1年		
到達目標	電気に関する基礎的な知識、計算能力と理論と応用を学び、実際に活用する能力を育てる。		
授業内容	①直流回路 電流・電圧・抵抗 オームの法則 抵抗回路 電流の作用 ②磁気 磁力の性質と働き 誘導インダクタンス ③静電気 電解の性質 コンデンサ ④交流回路 基本回路とその性質 直列回路の計算		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気数学		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科 1 年		
到達目標	電気回路を理解する上で必要となる数学の基礎を理解し、計算力・法則などを身につける。		
授業内容	電気数学 ① 数とその計算 ② 文字式とその計算 ③ 方程式と不等式 ④ 関数とグラフ ⑤ 三角関数 ⑥ ベクトル		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	無線工学		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)	
対象学年	情報システム工学科1年		
到達目標	無線通信を行うために必要な電波の性質や電気回路、送受信装置、空中線、測定方法について理解する。		
授業内容	無線工学 ① 電気の基礎 ② 電子回路 ③ 送受信装置 ④ レーダ ⑤ 空中線系 ⑥ 電波の伝搬 ⑦ 電源 ⑧ 測定		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	通信技術		
実務経験 教員	12年間、通信設備工事の工事部、技術部の職務・実務経験のある教員が担当		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科1年		
到達目標	電気通信回線設備に端末設備等を接続するための技術について学習する。		
授業内容	①電気通信回線の伝送量 ②伝送量の計算 ③電気通信回線の電気特性 ④各種半導体 ⑤電界効果トランジスタ ⑥ひずみ、雑音、反響、SN比 ⑦通信方式と伝送方式 ⑧多元接続方式・多重アクセス制御方式 ⑨LAN間接続装置 ⑩端末設備とネットワークセキュリティ		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	消防設備		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科1年		
到達目標	自動火災報知設備やガス漏れ警報設備等の工事、または整備を行うための知識を習得する。		
授業内容	消防設備に関する知識 ①消防関連法令 ②構造・機能について ③設置基準について ④試験・点検について ⑤鑑別 ⑥製図		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	キャリア対策		
実務経験 教員			
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	情報システム工学科1年		
到達目標	就職試験で実施される、書類選考・SPI検査・面接などの対策を行い、希望する分野の企業に就職できるようにする。		
授業内容	① 筆記試験対策 SPI (言語・非言語) 一般常識 作文 各種適性試験 ② 応募書類の記入方法 履歴書 エントリーシート ③ 社会人としてのマナー ④ 自己PRなどのアピール材料について ⑤ 面接対策		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	電気工事座学				
実務経験 教員					
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科1年				
到達目標	電気工事の内幹線や分岐回路の設計、それらに関する計算方法、機器や法令等について理解する。				
授業内容	電気工事技術 ①配線図 ②器具と材料 ③配線設計と電気工事 ④検査方法 ⑤法令 ⑥電灯配線と複線図 ⑦電気の基礎理論				
評価方法	①レポートの提出 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	情報処理試験対策				
実務経験 教員					
必須選択	☐ 必須 ☐ 選択 ☒ 必須選択				
授業時間	前期 112 時間／後期 112 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	情報システム工学科1年				
到達目標	独) 情報処理推進機構 (IPA) が実施している国家資格である情報処理技術者試験の取得を目標とする。				
授業内容	①基礎理論 ②コンピュータシステム ③技術要素 ④開発技術 ⑤プロジェクトマネジメント ⑥サービスマネジメント ⑦システム戦略 ⑧経営戦略 ⑨企業と法務 基本情報技術者免除対象講座受講計画にて IPA に申請している計画に基づいて実施する。				
評価方法	①レポートの提出 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				